与論町立与論小学校

与論小だより

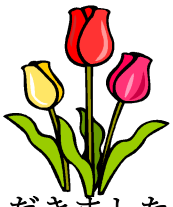
令和5年3月15日

学校教育目標 ： 校訓「至誠」を胸に、未来に挑む子供の育成

ブログはこちらから

幸多かれ

校長　　岩元　輝美

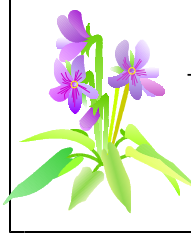


あたたかな日差しが窓から差し込み、春の訪れを待ちわびた人々の心を和ませています。今年度も保護者・地域の皆様から、変わらぬ温かい御理解と御協力をいただきましたことに心より感謝申し上げます。23日(木)には、16人の６年生が本校を巣立っていきます。３年間のコロナ対応にもよく耐え、工夫しながら楽しい学校生活を過ごしていった子供たちの成長に、心からの拍手を送ります。

さて、車椅子テニスプレーヤーの国枝慎吾選手が、先月現役を引退し、国民栄誉賞を受賞することになりました。彼の戦績や前人未到の偉業については、多くの方がご存知のことか思います。何と、車いすテニス４大大会で男子世界歴代最多となる計50回優勝、年間最終世界ランキング１位を８回、年間グランドスラム５回、パラリンピック５大会連続出場（金メダル４個）と驚異の実績をもつ選手でした。2006年に初めて世界１位になってから17年間、ずっと世界のトップ選手としてプレーし、今年の１月の世界ランキングでも１位でした。１位のままでの引退は前代未聞です。

そんな国枝選手の願いの一つは、車椅子テニスがスポーツとして認知されること、健常者テニスと車椅子テニスとの壁を失くすことでした。パラスポーツに対する日本の認識は世界に比べて低く、国枝選手が口惜しく残念な思いをしたことが多々あったと推察します。しかし、引退会見で「テニスが健常者と障がい者との垣根が最も無いスポーツだ。」と語ったその顔は、自信に満ち溢れ誇らしげでした。国枝選手が脊髄腫瘍により下肢の自由を奪われたのは、９歳の時です。活発で遊びたい盛りの野球少年に降りかかった困難がいかばかりであったか、想像も及びません。しかし、東京パラリンピック後に行われた、国枝選手と将棋の藤井聡太竜王との対談で、国枝選手の素晴らしい人となりを見ることができました。ほぼ20歳年下の藤井竜王に敬意を払い、常に敬語で受け答えをし、時にはユーモアを交えながら、会話を進めていく国枝選手の人間性に大変感動しました。どんな境遇にあっても明るさと自信を失わず、弛まぬ努力と修練で目標を達成する国枝選手の基礎を築いたのは、御両親に他なりません。とてつもなく大きな障壁を乗り越えねばならない運命を背負った我が子の将来に幸あれと願い、どんな苦労も厭わない…そんな親御さんの姿が目に浮かびます。

本校の教職員も保護者・地域の皆様も、与論小の子供たちの幸せを願っています。全ての子供たちの未来に、幸多かれと祈ります。



いよいよ本年度も残すところわずかとなりました。令和５年度も、子供たち一人一人が安心して学ぶことができ、笑顔があふれる与論小学校で、「校訓『至誠』を胸に、未来に挑む子供の育成」をめざしていきたいと思います。どうぞ御支援よろしくお願いいたします。一年間ありがとうございました。ミッシークトートゥガナシ！